OPEN ES

研究内容250

植物の環境ストレス耐性や発芽、老化に関わる植物ホルモンにABAがあります。このABA関連遺伝子を特定する事は環境ストレスに強い作物の作出などに役立てられると考えられています。しかし、その複雑なシグナル伝達に関わる遺伝子の完全な解明は出来ておりません。そこで私はABAに応答すると予測される遺伝子の欠損株や過剰発現株を作出し、生理試験や遺伝子発現、他たんぱく質との相互作用を解析し、ABAへの関与を調査しています。これにより、将来的に環境ストレスに強い植物の情報基盤となるデータを提供出来る事が期待されています。

自己Ｐ400

私の長所は【改善能力】です。私は常に自らの成長を考え、昨日の自分より今日の自分が成長している事を心がけています。この長所が最も現れたのが研究室での実験です。学部時代の私は失敗した後の反省が甘く、同じ失敗を繰り返してしまう事や自分では分からない問題にぶつかったときに著しく停滞する事がありました。そこで私は実験の計画、実行、反省を徹底的に見つめ直しました。これまでは期限を持たなかった作業も制限時間を設け、作業効率をあげ、実験に成功しても失敗してもその原因を考え、ノートに記す事で次の実験に生かしました。その結果、実験のスピードが格段に上昇し、現在では学術雑誌に論文を掲載できるレベルまで進める事ができました。この経験から「Why」を繰り返し、修正する事で常にアップデートされ、着実にゴールに向かう事を学びました。今後も、この【改善能力】を生かし、貴社の元で尽力したいです。

この長所は実験だけでなく、日々の生活でも心がけており、どんなに些細な事でも「なるほど」と思った事はメモするようになりました。

学生時代最も打ち込んだこと400

文化祭での巨大パネル製作です。私の大学の文化祭で毎年行われる競技の一つに、学科対抗で4０ｍのパネルを製作し、一般の方による投票で順位を決める競技があります。私はその製作責任者を務めました。これまで私の学科は毎年似たデザインが採用され、上位に入賞する機会がほとんどありませんでした。私は「そんな伝統を打ち破り優勝したい」と強く想いました。そこで、私は本番の半年前から準備を始めました。まず、昨年までの優勝作品の傾向を徹底的に分析しました。それをもとに、これまでの洋風デザインから和風で迫力あるデザインに変更しました。さらに、筆では表現できないグラデーションを表現する為に、新たに指で塗る技法を取り入れました。その結果、１６学科中２位に躍り出ました。優勝には届きませんでしたがこの経験により、高い志を持ち、改善していく大切さを学びました。